

リウマチ科

1. 概要

当科は、整形外科から発展したが内科的治療を基本とし、外科的治療もおこなっている。当科の診療の4本柱について記す。

- (1) 関節リウマチ（RA）の薬物治療：MTXを中心とした古典的抗リウマチ薬を早期から使用し、効果不十分例には生物学的製剤を導入し関節破壊の防止に努めている。新薬の治験も行っている。
- (2) 各種リウマチ性疾患（強直性脊椎炎、乾癬性関節炎、リウマチ性多発筋痛症、SAPHO症候群）：比較的珍しい疾患群であるが、対応し疾患ごとの適切な治療を行っている。
- (3) 骨粗鬆症の診療：古典的薬剤に加え、新規薬剤（テリパラチド、デノスマブ）が出現し、パラダイムシフトが起こっている。骨折診療の潮流は治療から予防に向かっている。
- (4) RAの外科的治療：長期罹病RA患者には外科的治療が必要であり、薬物治療とのコンビネーションこそが最高の結果をもたらす。人工関節置換術、関節固定術、関節形成術を行っている。

（部長 平野 裕司）

2013年度RA患者背景		
症例数件数(件)		855
新患者数(各年)		67
性別	男(人)	208
	女(人)	647
	女性率(%)	75.7
平均年齢(歳)		64.9
平均罹病期間(年)		13.2
罹病期間分類(%)	2年以下	13.3
	3年～9年	32.1
	10年以上	54.6
Stage(%)	I	20.3
	II	14.6
	III	25.9
	IV	39.2
Class(%)	1	19.2
	2	48.6
	3	27.2
	4	4.8
RF陽性率(%)		79.2
ACPA陽性率(%)		82.4

2013年度RA薬物治療	
MTX投与者(人)	599
MTX投与率(%)	65.5
投与例の平均MTX投与量(mg/w)	8.7
アザルフィジン投与者(人)	189
アザルフィジン投与率(%)	21.0
プログラフ投与者(人)	176
プログラフ投与率(%)	19.6
PSL投与率(%)	33.9
投与例の平均PSL投与量(mg/day)	4.3
生物学的製剤経験者(人)	273
生物学的製剤経験率(%)	32.0

2013年度RA臨床成績		
平均CRP(mg/dl)	0.78	
平均DAS28(ESR)	3.04	
DAS28(ESR)疾患活動性分類(%)	High	6.1
	Moderate	20.7
	Low	34.8
	Remission	38.4
平均SDAI	7.57	
SDAI疾患活動性分類(%)	High	3.9
	Moderate	44.8
	Low	19.0
	Remission	32.3
Boolean4(%)	21.4	
平均mHAQ	0.48	
mHAQ<0.5(%)	67.8	

2013年リウマチ科手術(件)	
合計手術件数	29
人工膝関節置換術	8
人工股関節置換術	2
足趾形成術	7
RA手関節手術	4
足関節固定術	1

【国際学会】

リウマチ科部長 平野 裕司 (Annual European Congress of Rheumatology 2013 in Madrid)

ULAR13-3460

EFFICACY OF TERIPARATIDE ON OSTEOPOROSIS IN PATIENTS WITH RHEUMATOID ARTHRITIS ~ IS COMBINATION OF TERIPARATIDE AND BIOLOGICAL AGENTS APPROPRIATE? ~ Y. Hirano¹, *Y. Oishi¹, G. Takemoto¹, T. Kojima², N. Ishiguro²

¹Rheumatology, Toyohashi Municipal Hospital, Toyohashi, ²Orthopaedic Surgery, Nagoya University Graduate School of Medicine, Nagoya, Japan

My abstract has been or will be presented at a scientific meeting during a 12 months period prior to EULAR 2013: No Is the first author applying for a travel bursary?: No Is the first author of this abstract an undergraduate medical student?: No Background: Although medication of rheumatoid arthritis (RA) has been improved by positive administration of methotrexate and biological agents (BIO) for decades, treatment of concomitant disease in RA patients, such as osteoporosis, will be more important for better outcome in RA patients. Osteoporosis of RA patients is composed from multifactorial pathogenesis, such as excess of inflammatory cytokines, excess of rest due to joint pain and drugs used for treatment of RA.

Objectives: This retrospective study investigated the efficacy of teriparatide (TPTD) on osteoporosis in RA patients and focused on relationship of the efficacy of TPTD and concomitant drugs, such as oral prednisolone (PSL), activated vitamin D (actVitD) and BIO.

Methods: 45 cases (44 female and one male) were used in this study. Patients' characteristics, bone mineral density (BMD) of lumbar spine (LS) and proximal femur (PF) measured by DEXA and bone turnover markers (BAP, P1NP, NTX, TRACP-5b) were investigated. (1) Factors that affect efficacy of TPTD, (2) the comparison between the BIO-concomitant and the non BIO-concomitant and (3) the comparison between the actVitD-concomitant and the non actVitD concomitant were analyzed.

Results: Mean age was 70.8 years old. Mean RA duration was 19.5 years. 31 cases (68.9%) were concomitant with oral PSL. 15 cases (33.3%) were concomitant with BIO. 33 cases (73.3%) were concomitant with actVitD. 32 cases (71.1%) have the past history of fracture. %increase of LS-BMD in all cases was 7.6% at 6 month and 11.9% at 12 month.

%increase of PF-BMD in all cases was 1.6% at 6 month and 3.9% at 12 month. Four bone turnover markers were significantly increased and %increase of P1NP was maximum among them. Significant low body mass index (BMI) and significant low oral PSL usage were seen in the good outcome group of LS-BMD. P1NP in good outcome group of LS-BMD was increased more than that in non good outcome group. Although %increase of BMD in the BIO-concomitant was low compared with that in the non BIO-concomitant, %increase of bone turnover markers in the BIO-concomitant was high compared with that in the non BIO-concomitant. This result was paradoxical from that in whole cases. %increase of PF-BMD in the actVitD-concomitant was better than that in the non actVitD-concomitant. Hypercalcemia occurred in 18.2% of the actVitD-concomitant and 8.3% of non actVitD concomitant (p=0.65).

Conclusions: TPTD was effective in osteoporosis of RA patients. Efficacy of TPTD in RA patients was affected with BMI, response of bone turnover markers and drugs concomitantly used. The results in the BIO-concomitant showed different trend from that in whole cases and these paradoxical

results suggested that medicinal action of TPTD might be interfered with that of BIO. PF-BMD in the actVidD-concomitant was better than the non-concomitant and this results suggested that some patients needed actVidD when treated with TPTD.

Disclosure of Interest None Declared

学会発表（医局）

<リウマチ科>

※丸数字は共同研究者を示す

No.	演 題 名	発表者及び 共同研究者	学会・研究会名	発表年月日
①	トシリズマブ効果不十分の関節リウマチに対するタクロリムスの追加併用療法	平野 裕司	第57回日本リウマチ学会総会・学術集会	2013/4/19
②	10-20年経過観察した早期RA167例における予後不良因子の検討 ～RAPAとNL JS12～	大石 幸由	第57回日本リウマチ学会総会・学術集会	2013/4/19
③	関節リウマチ治療におけるエタネルセプトの効果発現様式の解析	平野裕司	第57回日本リウマチ学会総会・学術集会	2013/4/19
④	関節リウマチにおいてアバタセプトが即効性になる病例の解析(第2報) ～多施設研究登録システムTBCRより～	平野 裕司	第57回日本リウマチ学会総会・学術集会	2013/4/19
⑤	関節リウマチにおけるMTX用法用量改定後のアダリムマブの有効性 ～多施設研究登録システムTBCRより～	平野 裕司	第57回日本リウマチ学会総会・学術集会	2013/4/19
⑥	関節リウマチにおける生物学的製剤使用例に対するメトトレキサートの週8mgを超える投与の治療成績	田中 宏昌	第57回日本リウマチ学会総会・学術集会	2013/4/19
⑦	関節リウマチにおけるゴリムマブの50mg/4週からの100mg/4週への増量の効果の検討 ～多施設登録TBCRより～	平野 裕司	第57回日本リウマチ学会総会・学術集会	2013/4/20
⑧	関節リウマチの骨粗鬆症におけるテリパラチドの1年までの効果 ～活性化ビタミンD製剤併用の意義～	平野 裕司	第57回日本リウマチ学会総会・学術集会	2013/4/20
⑨	関節リウマチ患者の骨粗鬆症において生物学的製剤とテリパラチドとの併用の骨密度と骨代謝マーカーに与える影響	竹本 元大	第57回日本リウマチ学会総会・学術集会	2013/4/20
⑩	関節リウマチの骨粗鬆症に対するテリパラチド(フォルテオ)の効果	平野 裕司	第86回日本整形外科学会総会	2013/5/23
⑪	Efficacy of Teriparatide on Osteoporosis in Patients with Rheumatoid Arthritis ～ Is it Appropriate to Prescribe Teriparatide Together with Biological Agents? ～	Yuji Hirano	Annual European Congress of Rheumatology 2013	2013/6/14
⑫	関節リウマチにおけるMTX用量用法改定後のアダリムマブの有効性 ～多施設研究登録システムTBCRより～	平野 裕司	第25回中部リウマチ学会	2013/9/6
⑬	関節リウマチにおける生物学的製剤使用例に対するメトトレキサートの週8mgを超える投与の治療成績	田中 宏昌	第25回中部リウマチ学会	2013/9/6
⑭	関節リウマチにおける生物学的製剤と寛解	平野 裕司	第25回中部リウマチ学会	2013/9/7
⑮	トシリズマブ効果不十分例の関節リウマチに対するタクロリムスの追加併用療法	平野 裕司	第121回中部日本整形外科災害外科学術集会	2013/10/3
⑯	実臨床におけるTreat to Target ～発症1年以内の検討～	平野 裕司	第121回中部日本整形外科災害外科学術集会	2013/10/3
⑰	関節リウマチの骨粗鬆症に対するエルデカルシロールの短期臨床成績	平野 裕司	第15回日本骨粗鬆学会	2013/10/13
⑱	関節リウマチの骨粗鬆症に対するテリパラチド連日皮下投与の1年臨床成績～プレドニゾン投与の影響の解析～	平野 裕司	第15回日本骨粗鬆学会	2013/10/13
⑲	当科における高齢発症RAの患者背景と治療の特徴	平野 裕司	第41回日本関節病学会	2013/11/2

学会発表（医局）

<リウマチ科>

※丸数字は共同研究者を示す

No.	演 題 名	発表者及び 共同研究者	学会・研究会名	発表年月日
⑳	関節リウマチにおけるゴリムマブの50mg/4週から100mg/4週への増量の効果の検討 ～多施設登録研究TBCRより～	平野 裕司	第41回日本関節病学会	2013/11/2
㉑	関節リウマチ患者に対する人工膝関節置換術の効果の分析 ～局所的効果、全身性疾患活動性、生活の質への影響の比較～	岡田 貴士	第41回日本関節病学会	2013/11/3
㉒	関節リウマチにおけるイグラチモドの有効性と安全性	平野 裕司	第28回日本臨床リウマチ学会	2013/11/30
㉓	関節リウマチ治療におけるエタネルセプトの効果発現様式の解析	平野 裕司	第28回日本臨床リウマチ学会	2013/11/30
㉔	関節リウマチの骨粗鬆症に対するテリバラチド連日皮下投与の1年臨床成績～プレドニゾロン投与の影響の解析～	平野 裕司	第28回日本臨床リウマチ学会	2013/12/1
㉕	貯留嚢胞を伴う膵IPMN由来浸潤癌に対して膵頭十二指腸切除、門脈合併切除再建を施行した1例	青葉 太郎	第25回日本肝胆膵外科学会学術集会	2013/6/13

研究会発表（医局）

<リウマチ科>

※丸数字は共同研究者を示す

No.	演 題 名	発表者及び 共同研究者	学会・研究会名	発表年月日
①	関節リウマチにおけるゴリムマブの50mg/4週から100mg/4週への増量の効果の検討 ～多施設登録研究TBCRより～	平野 裕司	第34回東三河リウマチ研究会	2013/5/18
②	関節リウマチにおける生物学的製剤使用例に対するメトトレキサートの週8mgを超える投与の治療成績	田中 宏昌	第34回東三河リウマチ研究会	2013/5/18
③	関節リウマチにおけるMTX用量用法改定後のアダリムマブの有効性	平野 裕司	第35回東三河リウマチ研究会	2013/8/10
④	関節リウマチ患者に対する人工膝関節置換術の効果の分析 ～局所的効果、全身性疾患活動性、生活の質への影響の比較～	岡田 貴士	第35回東三河リウマチ研究会	2013/8/10
⑤	関節リウマチにおけるエタネルセプトの効果発現様式の解析	平野 裕司	第36回東三河リウマチ研究会	2013/10/26

座長・司会（医局）

<リウマチ科>

No.	演 題 名	座長名	学会・研究会名	発表年月日
1	症例検討3演題	平野 裕司	第1回三河MTX研究会	2013/2/2
2	骨代謝研究の最新の進歩と骨粗鬆症治療(中村利孝先生)	大石 幸由	東三学術講演会	2013/2/20
3	実臨床下のTocilizumabの有用性(矢部裕一郎先生)	平野 裕司	第4回東三河アクテムラカンファレンス	2013/3/1
4	関節リウマチにおけるタイトコントロールの重要性～インフリキシマブの増量から判った治療のタイミング～(加藤武史先生)	平野 裕司	RA Nurse Seminar	2013/3/23
5	T2T時代のRA治療戦略～薬物的治療から手術的治療まで～(中川夏子先生)	平野 裕司	東三河RA Expert セミナー	2013/5/9
6	一般演題	平野 裕司	第4回三河地区トシリズマブ研究会	2013/6/8
7	股関節炎を伴った関節リウマチ(若林弘樹先生)	平野 裕司	東三河RA Expert セミナー	2013/11/7
8	骨粗鬆症診療に関する最新の話(宗圓 聰先生)	平野 裕司	PrالياSymposium in Toyohashi	2013/11/11

講 演（医局）

<リウマチ科>

※丸数字は共同講演者を示す

No.	演 題 名	演者名	学会・研究会名	年月日
1	関節リウマチの生物学的製剤において留意するポイント～レミケードとシンボニーを効果的に使用するには～	平野 裕司	Infliximab治療を考える会	2013/1/17
2	アダリムマブの“効果最大化と継続”のキーポイント	平野 裕司	Osaka City Biologic Conference～ヒュミラ発売4周年を迎えて～	2013/1/24
3	幅広い選択肢の中から考える最適な関節リウマチ治療	平野 裕司	関節リウマチセミナー	2013/2/7
4	関節リウマチの生物学的製剤において留意するポイント～レミケードとシンボニーを効果的に使用するには～	平野 裕司	中津 RA Seminar	2013/2/27
5	新規抗TNF製剤の臨床的パフォーマンス ～多施設研究データをもとに～	平野 裕司	八事整形会リウマチセミナー	2013/5/29
6	関節リウマチの骨粗鬆症に対するフォルテオの効果～実臨床データからの解析～	平野 裕司	春日井市骨粗鬆症リウマチ学術講演会	2013/6/1
7	関節リウマチ診療の最新トピックス～問診・検査からアダリムマブ最新情報まで～	平野 裕司	第3回蒲郡リウマチカンファレンスセミナー	2013/6/6
8	臨床データからわかるアバタセプトのパフォーマンスの解析 ～多施設研究TBCRより～	平野 裕司	豊橋オレンシアセミナー	2013/6/7
9	ゴリムマブの臨床的パフォーマンス～EULAR2013の最新情報とともに～	平野 裕司	GLM expert meeting	2013/7/4
10	関節リウマチの骨粗鬆症に対するフォルテオの効果 ～実臨床データからの解析～	平野 裕司	LillyBone Web 講演会	2013/8/1
11	MTXガイドラインを基本とした用法用量改定後のMTXの有効性	平野 裕司	豊橋薬剤師会	2013/8/22
12	抗TNF製剤の臨床的パフォーマンス～EULAR2013の最新情報とともに～	平野 裕司	高山RAセミナー	2013/8/29
13	関節リウマチの骨粗鬆症に対するテリパラチドの効果 ～実臨床データからの解析～	平野 裕司	水戸ステロイド性骨粗鬆症臨床セミナー	2013/9/18
14	関節リウマチの骨粗鬆症に対するフォルテオの効果 ～実臨床データからの解析～	平野 裕司	西三河Bone Conference	2013/9/26
15	アダリムマブの“効果最大化と継続”のキーポイント	平野 裕司	第8回富山リウマチ・トータルマネジメント研究会	2013/9/28
16	関節リウマチ診療の最新の動向	平野 裕司	愛病薬東三河支部学術講演会	2013/10/17
17	関節リウマチの骨粗鬆症に対するフォルテオの効果 ～実臨床データからの解析～	平野 裕司	東北G10Pセミナー	2013/10/20
18	関節リウマチの骨粗鬆症に対するフォルテオの効果 ～実臨床データからの解析～	平野 裕司	静岡県リウマチ・骨粗鬆症研究会	2013/11/16
19	高齢者の関節リウマチの薬物治療 ～アバタセプトの最新情報を添えて～	平野 裕司	豊橋オレンシアセミナー	2013/11/18

論文・著書（医局）

<リウマチ科>

※丸数字は共同研究者を示す

No.	題名	発表者及び共同研究者	雑誌名
1	Bio製剤の効果を最大限に発揮させるDMARDsの使用方法	平野 裕司	CLINICIAN' 13 No. 616, 187-192頁
②	関節リウマチにおけるメトトレキサートの週8mgを超える投与の治療成績	佐伯 将臣	臨床リウマチ 25:93-98頁, 2013年
③	SAPHO症候群の5例	佐伯 将臣	中部リウマチ 43(1)46-48頁, 2013年